

名 称	令和7年度 第1回 目黒区障害者自立支援協議会本会議
日 時	令和7年7月4日（金）午後6時～午後8時20分
会 場	総合庁舎本館4階 政策会議室
会議次第	1 開会 2 委嘱 （1）委嘱・委員紹介 （2）会長・副会長の選任 3 目黒区障害者自立支援協議会の概要について 4 議題 （1）次期目黒区障害者計画の策定に向けた取組について （2）地域課題について （3）目黒区障害者自立支援協議会の活動について （4）各専門部会・連絡会からの活動報告等 （5）各事業の実績報告 5 区からの情報提供 6 その他 【今後の日程】 第2回本会議 令和7年11月5日（水）午後6時～午後8時 第3回本会議 令和8年2月10日（火）午後6時～午後8時 7 閉会
出席者	委員：岩崎委員（会長）、北本委員（副会長）、橋本委員、谷津委員、松原委員、野村委員、徳永委員、深町委員、江見委員、渥美委員、岸井委員、田中委員、水谷委員、白鳥委員、島添委員、田島委員、重盛委員、比護委員、岡村委員、鈴木委員 区職員：櫻庭（障害施策推進課長）、山内（障害者支援課長）、末木（教育支援課長）、丸山（障害施設係長）、浅野（身体障害者相談係長）、石田（知的障害・発達障害相談係長）、牧野（知的障害・発達障害相談係主査）、田所（精神障害福祉・難病係長）、松田（保健管理係長）、事務局：水野（計画推進係長）、渡邊・山口（計画推進係）、小野寺（基幹相談支援センター）
欠席者	中野委員、保坂（健康福祉部長）、渡部（保健予防課長）、米澤（地域保健課長）、佐藤（子ども若者課長）、桑野（すくすくのびのび園長）
配布資料	資料1：目黒区障害者自立支援協議会の概要 資料2-1：目黒区障害者自立支援協議会の運営要綱 資料2-2：新旧対照表 目黒区障害者自立支援協議会運営要綱の一部改正 資料3-1：次期目黒区障害者計画の策定に向けた取組について 資料3-2：各計画期間の見直しにおけるイメージ図 資料3-3：調査票（案）成人用 資料3-4：調査票（案）成人用（分かりやすい版） 資料3-5：調査票（案）児童保護者用 資料3-6：調査項目素案に対する意見及び対応方針について 資料3-7：調査項目素案に対する意見及び対応方針について（分かりやすい版） 資料4：目黒区障害者自立支援協議会の活動について 資料5：各専門部会・連絡会の活動報告書

	資料６－１：目黒区地域生活支援拠点 令和６年度事業実績 資料６－２：目黒区基幹相談支援センター 令和６年度事業実績 資料６－３：目黒区発達障害支援拠点ぽると 令和６年度事業実績及び令和７年度事業計画 資料６－４：精神障害者退院相談支援事業 令和６年度事業実績 資料６－５：精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築に向けた取り組み 令和６年度実績
会議内容	１ 開会 事務局から委員が再編された旨の報告及び開会の挨拶を行った。 事務局から配布資料の確認と運営上の注意について説明を行った。 東京都からの依頼により、相談支援従事者現任研修の研修生９名が見学。 事務局 傍聴申請があるが協議会の公開について異議はあるか。異議はないため傍聴を許可する。 傍聴者入室。 ２ 委嘱 （１） 委嘱・委員紹介 委員名簿に沿って委員紹介を行った後、区の職員紹介、事務局の職員紹介を行った。 （２） 会長・副会長の選任 推薦により岩崎委員が会長に、北本委員が副会長に選出された。 ３ 目黒区障害者自立支援協議会の概要について 障害施策推進課長 目黒区障害者自立支援協議会の概要について、資料１に沿って説明を行った。 目黒区障害者自立支援協議会運営要綱について、資料２－１、資料２－２に沿って説明を行った。 ４ 議題 （１） 次期目黒区障害者計画の策定に向けた取組について 障害施策推進課長 目黒区障害者計画の策定に向けた取組について、資料３－１に沿って説明を行い、令和７年度及び８年度は次期障害者計画の策定に向けた検討年度となるため、策定に当たっては、目黒区地域福祉審議会に対して計画の方向性等について諮問し、答申を得る必要がある旨説明を行った。 また、計画期間の見直しについて、資料３－２に沿って説明を行った。 各委員から寄せられた障害者計画策定に関する調査項目素案に対する意見について、その対応方針を資料３－６及び資料３－７に沿って説明を行った。 会長 質問・意見がある委員はいるか。 委員 今回配布の調査票（資料３－３、資料３－４、資料３－５）は、修正が入っているものなのか。 障害施策推進課長 調査票３種類のうち、「成人用」と「児童保護者用」は、いただいた意見をもとに内容を修正済

みのものをお渡ししている。知的障害のあるかたに対応した「分かりやすい版」は修正が反映できていないため、後日修正後のものを送付する。

委員

調査票の表紙には、令和7年7月4日と日付が表記されているが、表紙の次のページには令和7年9月と表記されている。この時系列にはどのような意味があるのか。

障害施策推進課長

表紙に表記している日付は、本日時点のものという意味であるため、調査を行う際は調査開始の日付（令和7年9月1日）に変更する。

会長

他に質問・意見がある委員はいるか。

委員

調査対象者の中で、精神障害の方の対象人数が前回より1.5倍増えた理由は何か。

障害施策推進課長

障害者手帳の取得者数が増えたことによる。

会長

障害者手帳の取得者が増えたのは、何か特定の理由があるのか。

委員

目黒障害者就労支援センターでは、最初の相談の時点では障害者手帳を持っていない方でも、その後サービスを利用するときには、障害者手帳の取得や医師の診断書等が必要となる。そのため、サービス利用を機に障害者手帳を取得する方が多いことが要因の一つではないか。

（２） 地域課題について

会長

地域課題の検討状況について、相談支援部会及び子ども部会から報告をお願いする。報告の前に、事務局から地域課題について説明をお願いする。

障害施策推進課長

令和6年度の取組を通じ、相談支援部会及び子ども部会から、それぞれテーマを一つずつ挙げ、専門部会の活動や課題検討会議での検討を経て、その解決に向けた検討を進めている。

相談支援部会は「ガイドヘルパー不足について」、子ども部会は「発達障害児に対する地域でのサポート体制について」をテーマに取り上げ、現在は地域の実態把握を進めているところである。

相談支援部会

令和6年度に挙げた「ガイドヘルパー不足」というテーマに対し、今年度の相談支援部会では、「継続課題班」を設け、具体的な検討を進めている。現在は、区内の移動支援事業所に向けたアンケートを作成している段階である。

子ども部会

発達障害は見えにくく、周囲から気付かれにくい障害であることから、早期に支援を行うことが重要である。特に、医療や教育分野との連携強化を行っていきたい。

また、発達障害支援は、子どもから成人まで続くものであり、成人期の就労や社会参加を含め、ライフステージ全体を見据えた支援が必要である。

発達障害児の支援という枠組みだけでなく、成長の過程に沿った支援の在り方を考え、具体的

な事例を抽出するための議論を進めている。

(3) 目黒区障害者自立支援協議会の活動について

会長

目黒区障害者自立支援協議会の活動について、事務局から説明をお願いします。

障害施策推進課長

資料4に沿って説明を行った。

委員の皆さまには、以下の点について協議いただきたい。

- ・ 今年度、協議会として「協議会の活動周知」と「地域との交流・つながりを持つこと」に向けた活動を実施するか。
- ・ 実施する場合、活動の方向性やテーマ、体制等についてどうすべきか。

実施に当たっての要件は、①「活動に係る予算が確保されていないこと」及び②「活動に向けた実施体制を確保すること」であり、特に②については、本会議委員及び各専門部会員・連絡会員で構成された検討グループにおいて具体的な実施内容を検討する必要があると考える。実施する場合、今後の本会議で進捗報告等を行うことから、本会議委員を座長として検討グループの運営を行っていくことが望ましいのではないかと。

「協議会の活動周知」については、区公式ウェブサイトを充実する形で、より広く効果的な情報発信につなげることを考えている。

会長

意見がある委員はいるか。

委員

これまで取り組んできた「イベント実行委員会」は、専門部会や連絡会ではなく、どこにもその位置付けが明記されていないものであった。しかし、義務付けされた活動のように位置付けられ、各部会や連絡会から委員を選出することで成り立っていることに疑問を感じる。

発足当初は、協議会の活動が認知されておらず、当時の実行委員の想いから自発的に活動が生まれたものであるため、位置付けの明記がないのはやむを得ないことではある。

当時は、結束力とやる気で担えていたが、徐々に活動が活発化したことで、負担感が生じてきたように感じる。発足当初は、大事な活動としてスタートしたが、状況が安定して活動が定着してきた近年においては、過去と同様の形で実施するだけでは成果は上がっていないのではないかと。

会長

今年度新たに就任した委員はイメージが付きにくいのではないかと。過去に、イベント実行委員会に関わってきた委員からぜひ発言をお願いしたい。

委員

発足当初は、自立支援協議会について区民に周知するだけでなく、各事業所での生産品の販売等、様々な活動があった。

自立支援協議会が地域課題を抽出する方向で動いていくのであれば、「イベント」という言葉が適切かはわからないが、区内でどのような地域課題があるのかを広く区民に知ってもらい、地域課題について考える場にしていくのはどうか。

委員

今年度、部会員に対し、イベントに関するアンケートを実施した。部会員からは、「部会の活動もあり負担感が大きい」という意見があった。イベントを行いたいと思っている部会員もいるが、負担感が大きくなることが懸念されるため、少ない負担感でできると良い。

コロナ禍以降、協議会に関するポスターの掲示や障害者週間記念事業「めぐろふれあいフェスティバル」の場を借りて相談ブースを設けてきたが、活動周知や地域とのつながりを持つことに対して効果は薄かったように感じる。

委員

本会議と専門部会との温度差が大きすぎるのではないかと感じる。部会員としては、なぜ本会議で決定したイベントの実施を部会員が行う必要があるのかとを感じる部分があり、イベント実施への意欲が高まらない。

委員

過去にイベント実行委員会に関わってきた委員に質問したい。コロナ禍以前に行っていた映画上映や講演会の予算はどうしていたのか。

委員

当時から予算化はされていなかった。人とのつながりで、謝礼金が不要な方をお招きしたこともあれば、映画上映など実施場所を探している方がいたときには、協議会のイベントを活用してもらう等、費用をかけずに行ってきたが、予算化されていない中での辛さもあった。

委員

検討グループを設置する場合も、次年度以降の取組みを検討する場合も、予算化はできないのか。

障害施策推進課長

少なくとも今年度の予算化は難しい。検討の中で方向性が決まり、来年度に向けて具体化していけば、予算化の確約ではないが、予算要求を行うことは可能である。

会長

他に質問・意見がある委員はいるか。

副会長

協議会としてイベントを行うかについては主体性・自主性が大切であり、自分たちが取り組みたいと考える内容でないと盛り上がりに欠け、効果も出ない。

地域課題について触れるが、テーマの一つである「ガイドヘルパー不足」は地域課題ではなく経営課題であると考えられる。

地域の課題とは、例えば、障害がある方が移動する際、ガイドヘルパーを利用したいが、ガイドヘルパーの不足により移動ができないということであれば、ガイドヘルパー不足だけに焦点を当てるのではなく、この地域で「障害がある方の移動をどうしたら良いか」ということが課題になり、この「移動の問題」が地域課題と整理できる。移動のためのバスやタクシー券が必要といった意見もあるかもしれないし、そのほかにも色々な案がある中の一つにガイドヘルパー不足が入ってくる。あくまでもガイドヘルパーを充足させることは一つの選択肢である。

協議会としてイベントを立ち上げ、移動支援のボランティアを増やすための活動や、移動支援の仕事の紹介をする等も取組の一つである。障害のある方の理解が地域住民に広がり、例えば、街中で困っている方やバスに乗る方に声を掛けることが当たり前になれば、仕事という形でなくても、良い方向に街に変化していくのではないかと。

住民にとって、街を良くする企画や、今は不要であっても将来的に支援が必要となったときに助け合いの街に住んでいて良かったと区民が実感できるようなイベントであれば興味を持ってもらえるのではないかな。地域課題に関連付けたイベントを行うのであれば意味があるのではないかな。

副会長

本日イベントを行うかどうかの結論は出ないかもしれないが、事務局から提案があった区公式ウェブサイトの活用は進めてみてはどうか。

イベントについて、具体的な案がないようであれば、今年度の予算化も難しい中であるため、今年度は引き続き検討することが望ましいのではないかな。

会長

仮に次年度イベントを行う方針となった場合、11月開催の本会議で予算要求は間に合うのか。

障害施策推進課

11月の第2回本会議の時期になると、次年度の予算要求には間に合わない。

委員

予算要求のときには、具体的な予算要求の根拠等の内容が求められるのではないかな。予算要求を行う際に、どの程度まで内容が具体化していると良いか確認したい。

障害施策推進課長

予算の見積りができる程度は具体化してほしい。座長を筆頭に、今年度暫定的に実施したイベント実行委員会を継続し検討することも選択肢としてあるのではないかな。

委員

これまで行ってきたパネル展示や専門部会・連絡会の活動紹介は、やりがいを感じられないという意見があった。協議会としてのイベントにしていくためには、目的や対象を議論していく必要があるのではないかな。

今年度は、地域課題を多く抽出し、地域課題とは何なのかを投げかけていく年にしてはどうか。地域に知ってほしいことや区民と一緒に取り組んでいきたいことが見えてくると、機運も高まり有効な活動の実施につながっていくのではないかな。気持ちだけで取り組むのは限界があり、イベント実行委員会の在り方や予算確保など議論すべき点は複数ある。

障害施策推進課長

改めて提案する。今年度は区のウェブサイトの充実を図り、その中でどのような取組が可能であるか、委員に検討いただきたい。自立支援協議会イベントの方向性を丁寧に検討した上で、本会議の議題とすべきであった。今年度の方向性については一旦、区で預かる方向としたい。

委員

既に今年度1回目のイベント実行委員会を開催しているが、区で預かるということは、今年度はイベント実行委員会の活動は開催しないということか。

第1回目で出た案の中には、ふれあいフェスティバルに焦点を合わせるのではなく、別物として考えることも選択肢として挙がっていた。不足しているのは機運の醸成であって、実施に向けた気持ちを高めていくためには時間を要する。そのような中で、区で預かることとなると立ち消えになってしまうのではないかな。

障害施策推進課長

第1回イベント実行委員会に参加した方を中心に、検討グループを設置し、方向性について考えていくという方針はどうか。区としては、ウェブサイトの充実を図ることとし、それぞれ役割分担をしながら今年度は進めていきたいと考えている。

副会長

ウェブサイトの充実に向けた取組は区だけが担うのではなく、委員の意見を取り入れた方が今後につながるのではないかと。情報発信のコンテンツや内容等については、ぜひ現場の声を取り入れて充実したものにしてほしい。

会長

今年度は、今後のイベントについて検討していくとともに、区のウェブサイトの充実を図っていくという方向性で良いか。

障害施策推進課長

委員より承認を得られるようであればその方向性としてほしい。

委員

名称が「イベント実行委員会」だとイベントありきの印象を受けるため、違う名称の方が望ましいのではないかと。

会長

次の検討の場があったときに、まずは「イベント実行委員会」の名称を考えることから始めてはどうか。参加者の負担となりすぎないように時間を費やししながら方向性について共有し、検討を進めてほしい。興味がある委員がいれば、ぜひ検討の場に加わってほしい。

今回の本会議までに結論を持ってきてほしいということではないものの、イメージが付きにくいところもあるのではないかと。次回に議論する機会があるのであれば、過去の実施内容も提示した上で、検討グループで議論いただいたことを共有できると良いのではないかと。

(4) 各専門部会・連絡会からの活動報告等

会長

各専門部会から報告をお願いします。

各専門部会長・各連絡会長

資料5に沿って報告を行った。

会長

質問・意見がある委員はいるか。

子ども部会

子どもの支援においては、児童発達支援から学齢期、成人期への移行期と多岐に渡っている。子ども部会には様々な事業所が参加しており、「子ども」を主語とした場合、様々な角度から複数の事例が出る。その中で、どの事例を選択し、どのように提起していくかということが定まらない現状である。本会議側から地域課題として取り上げるべき具体的な内容があれば提示してもらえないか。例えば、障害者計画の中でフォーカスしてほしいポイント等があれば参考にしたい。

会長

様々な課題があり、部会内から多様な意見が出ることで、どこに焦点を当てれば良いか、子ども部会内で集約しにくい現状があるということか。

子ども部会

現場レベルの場合、環境や制度、お金、人、家庭等、困り事が多数出てくる。障害者計画の中で、見直したいポイント等があれば、それに適した事例を出すことができるのではないかと考える。

子ども部会で検討した地域課題とその解決策について、本会議に提起することが無意味とならないように、どこにフォーカスすると有効な議論が行えるか明確化されていると事例を出しやすくなると感じる。来月、子ども部会で事例検討会を行う予定のため、持つべき視点等があればぜひ教えてほしい。

会長

事例検討や課題抽出においては、サポートする立場の人がいるという安心感のもとで、議論が進んでいくのが理想的である。事例や課題抽出の具体的な仕組みづくりについては、部会から挙げたものを活かすことができるように、事務局と相談しながら進めていくことが望ましいのではないかと。

他に、質問・意見がある委員はいるか。

子ども部会

資料5に記載の、「子ども部会主催のワークショップ」について意見を伺いたい。主催のところで、目黒区自立支援協議会の名称を使用しても問題ないか。

会長

事務局としての意見はあるか。

障害施策推進課長

「目黒区障害者自立支援協議会子ども部会」まで記載すれば問題はない。この点については委員からも承認をいただきたい。

委員

異議なし。

副会長

このワークショップは調理実習が目的なのか、それとも障害の理解を目的に交流するのか。

子ども部会

目的は両方である。地域交流の場、インクルーシブの場、相互理解の場にしたい。「食」というツールを使うことや、区内特別支援学校の家庭科室を利用する点が、今回の企画の趣旨に沿ったものになっており、障害の有無に関わらず交流の場を作りたいと考えている。

会長

質問・意見がある委員はいるか。

委員

令和6年度から協議会の位置付けが付属機関に移行したが、今後、協議会の名称を使用し、様々な活動が発展していく可能性がある。その際には、本会議で了承を得れば、名称を使用しても問題はないのか区確認したい。

障害施策推進課長

付属機関としての所掌事項に含まれるものであって、委員の皆さまにご承認いただければ、協議会の名称を使用することは問題ない。

副会長

障害のある子どもが誰なのかを明かすのか。明らかにせず、障害の有無に関わらず楽しむこと

を一番の目的とするのか、明かした上で、自分たちと大きな違いはないが配慮する部分があるという学びを得ることを目的とするのか、仮に明かして実施するのであれば、参加者募集のときから了承を得る必要がある。

子ども部会

部会へ持ち帰り検討したい。

委員

障害の有無に関わらず交流できる企画は、魅力的で応援したいと感じた。

特別支援学校に通っている子どもは突然パニックを起こし、親だけでは対応できず、先生の協力が必要となることもある。障害の有無の周知をどうするかということではなく、何かあったときのリスクを最小限に抑える方法や対応策を考えるべきではないか。

会長

委員から様々な意見が出たため、具体化する際に参考にしていただき、ぜひ実現いただきたい。

専門部会と連絡会からの報告についてはこれをもって終わるが、令和6年度までの議論の結果、この報告については年度初めの第1回自立支援協議会本会議でのみ報告を行うこととなったため、次回は令和8年度第1回自立支援協議会本会議で、令和7年度1年間の活動について報告いただくこととなる。

(5) 各事業の実績報告

会長

区からの事業実績報告をお願いします。

障害施策推進課長

資料6-1 目黒区地域生活支援拠点の事業実績及び資料6-2 目黒区基幹相談支援センターの事業実績については、各委員より報告をお願いします。

なお、資料6-3から資料6-5までの各事業の実績報告については、時間の都合上資料配布のみとさせていただく。各自お目通しいただきたい。

委員

資料6-1に沿って報告を行った。

委員

資料6-2に沿って報告を行った。

5 区からの情報提供

障害施策推進課長

配布チラシ「目黒区手話講座」に沿って報告を行った。

保健管理係長

今年度、組織再編が行われた。精神・難病の医療費助成費窓口、包括的な仕組みづくりを行う担当部署が保健予防課、区民の身近な保健相談や事業を行う担当部署が地域保健課となる。組織再編に伴い、窓口対応に変更が生じたため、配布パンフレット「こころの相談」の内容を変更し発行している。今後、関係機関へ送付する予定であるため、ぜひ活用いただきたい。

6 その他

会長

事務局から今後の予定について説明をお願いします。

事務局

第2回及び第3回の本会議の日程については、次第に記載の通り、第2回は令和7年11月5日（水）午後6時～午後8時、第3回は令和8年2月10日（火）午後6時～午後8時を予定している。詳細については、決まり次第連絡する。

なお、課題検討会議の開催については、現時点で未確定だが、本日報告いただいた地域課題について、関係機関を招き検討を進めていく予定である。

副会長

地域課題は制度の狭間の課題と言える。制度化されてはいないが必要であるというものを地域課題として出してほしい。あるいは、制度化されているが区民にもっと関わってもらいたい、任意の団体を作ってほしいといったことを含めて制度課題でないものを出していただけるとありがたい。そこから事業化や予算化が目指せることも望ましい。

制度化されているものは、調査結果からニーズに対する過不足が見えてくると言える。調査結果に反映されない部分で必要なことは現場が把握しているため、そこを地域課題として出すことが必要なのではないか。

7 閉会